

カルメル

霊性センターニュース



フラ・アンジェリコ画 「受胎告知」

2021年12月

381号

『靈性センターニュース』

2022 年度の郵送お申込みのご案内

靈性センターニュース 愛読者の皆様

ご愛読をありがとうございます。

2022 年度（1 月～12 月、8 月休刊のため 11 冊）の『靈性センターニュース』郵送をご希望される方は、以下の振替口座に 2,750 円程度の献金（郵送料込みで 1 冊 250 円の献金とすれば、11 冊で 2,750 円程度の献金）をお振込みいただければ、幸いです。

一度に 10 冊までお送りできますので、複数ご希望の方もご遠慮なくご記入下さい。（郵送料のみですので 1～10 冊まで同金額になります）

郵便番号口座： 00910-6-333184

加入者名： カルメル靈性センターニュース事務局

なお、振替用紙の通信欄には、混乱を避けるため、年間の「郵送申込」か純然たる「靈性センターへの献金」かを明記してください。また氏名、郵便番号・住所、電話等もお忘れなくご記入ください。

お問い合わせは、事務局の方へ電話かファックスか e-mail で、お願いいたします。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12

カルメル会宇治修道院 「靈性センターニュース事務局」

Tel:0774-32-7456

Fax:0774-32-7457

reisei@carmel-monastery.jp

『カルメル靈性センターニュース』事務局

目次

来年度の郵送お申込みのご案内	1
目次	2
教会からの巻頭の言葉	3
心の泉	5
カルメル会の企画案内	27
東京	28
キリスト教放送局 FEBC のご案内	31
京都	32
通信深読お申込みのご案内	34
諸所の企画案内	35
郵送お申込みのご案内	40
あとがき	41

「イエスにお目にかかりたいのです」(ヨハネ12章21節)

【フランシスコ教皇 使徒的勧告『福音の喜び』(2013年)84】

不毛な悲観主義

たびたびわたしたちの耳に届いて不愉快に思うことがあります。それは信仰の熱意を燃やしつつも公平な判断と賢明な思慮を欠いた人々の声です。この人々は、人類社会の現状を見ては破壊と災難しか見ることができず、過ぎ去った世紀と比べて現代はただただ悪いほうに向かってしまったと繰り返し言い続けます。……あたかも世の終りが近づいたかのように、つねに災いしか予告しない不運の預言者にわたしは絶対に賛成できません。人類の歴史と社会秩序が新しい時代に突入しようとしているときにも、むしろはかりしれない神の摂理を認めるべきでしょう。摂理は、時代の流れの中で、たびたび人の期待をも超えてその働きを成就し、人間の悲運をも教会の発展へと知恵深く向けてきました。

(注: 聖ヨハネ二十三世「第二バチカン公会議開会演説(1962年10月11日)」からの引用)





心の泉



聖母子像(宇治カルメル会修道院)



第三卷

第四十五章 誰でも信用してはならない、人は言葉の過失を犯しやすい

4 悪口

ああ、主よ、あなたが人を警戒しなさい、友人は敵となる(マタイ 10・17、36 参照)、ここにある、あそこにある(マタイ 24・23 参照)、と言われても信じるなど戒められたのは、なんと賢明だったことでしょうか。私は失敗してからそれを学んだのです。将来、二度と過ちを犯さず、いっそう警戒するようになりたいものです。「私が今言うことを、誰にも言うな」とある人が私に言ったとします。そこで、私は誰にも言わず、誰も知らないはずだと思っていたのに、秘密にしてくれと私に言ったその人自身が、秘密を守りきれないで、私と自分とを平気で裏切るのです。主よ、そういう無思慮な人間にならないように、私を守ってください。私が彼らの手中に落ちず、自分でもそういう過ちを犯さないようにしてください。私の口に、真実で変わることはない言葉を語らせ、狡猾な言葉を知らないようにしてください。他人にとって耐えがたいことは、自分自身も避けなければならないのです。

5 慎ましい態度

他人のことをしゃべらず、どんなことも軽々しく信じず、饒舌に陥らず、少数の人にだけ心を打ち明け、いつも心を見通されるあなたのみ旨を尋ね、さまざまな言葉の風にもてあそばれず、内部的なこと外部的なことも、まったくみ旨のままにおこなわれるように望むのは、平和を保つ上で、なんと有益なよいことでしょうか。人前に出ることを避け、人の関心を引くことを望まず、ただ、生活を改め、心を善に導くことだけを一心に探し求めるのは、天の恵みを保つ上でもっとも安全なことです。徳が人に知られ、あまり早く称賛を受けたために、どれほどの人が損害をこうむったことでしょうか！誘惑と闘いとに満ちた、このはかない人生において、沈黙のうちに神の恵みを守ったことによって、どれほどの人が利益を受けたことでしょうか！》

2021-12



2020年12月8日から2021年12月8日までを「ヨセフ年」と教皇様が宣言されてから、はや一年が過ぎました。コロナ禍にあつてわたしたちそれぞれの苦しみ、嘆き、悩み、迷いの闇の中にも世の光であるキリストを見つめ歩み続けようと努めてきました。12月…ちまたでは闇の夜にきらめく飾りつけ、「きよしこの夜」が鳴り響く師走の月…コロナ禍に、幼子イエスの誕生とは関係なく商業ベースのクリスマス・年末のにぎわいは増すのでしょうか。

闇の中を歩む民は、大いなる光を見る
死の陰の地に住んでいた者たちの上に、
光が輝く。

イザヤ 9：2

主よ、来てください！

この子は泣いています・・・

あなたを呼んでいます、大声であなたに呼びかけて
何が ほしいのでしょうか。

「かれを愛しなさい かれはお前を愛し
あなたのために 寒さにふるえているからごらん
かれはあなたを呼んでいます！」



～聖テレサの祈りより～

師走の忙しい日々に、

心の内をベトレヘムの馬小屋として静かにイエスの誕生を

待ち望むことができますように。



伊従 信子
ノートルダム・ド・ヴィ

創造主への賛美（48）

くのり 彰

「創造主への賛美」を妨げているのは、他でもない、知らず知らずに「自己賛美」に傾いてしまう自分自身であり、そのような自然的な自分を捨てることがキリストから求められているのである。

自分の十字架を担ってわたしに従わない者は、わたしにふさわしくない。自分の命を得ようとする者は、それを失い、わたしのために命を失う者は、かえってそれを得るのである。（マタ 10・38-39）

似たような表現は、すでに見たように、共観福音書に共通して見られる。

わたしの後に従いたい者は、自分を捨て、自分の十字架を背負って、わたしに従いなさい。自分の命を救いたいと思う者は、それを失うが、わたしのため、また福音のために命を失う者は、それを救うのである。（マコ 8・34-35；マタ 16・24-25；ルカ 9・23-24）

キリストに従う者の道は、日々、自分に死んでゆく「十字架の道」だということであるが、キリストご自身が私たちに先立って、カルワリオへの道を歩まれたのである。この箇所を十字架の聖ヨハネは、『カルメル山登攀』第二部第七章で解説している。

ああ、われらの主が、こうした自己否定がどこまでゆきつくようお望みになっているかを、だれが分からせてくれることができるであろうか。この否定は、確かに一つの死である。というのは、それは、この世のことにつけ、地上的なこと、霊的なことにつけ、およそあらゆることにおいて、それらを全く問題にしないことなのであるから。（7, 6）

それは、いわゆる自分から作り出す「能動的暗夜」と神から与えられる「受動的暗夜」を通して、感覚的な事柄に対しても精神的・霊的な事柄に対しても、自分を無にしていくことに他ならない。そしてその最上の模範こそ、キリストの十字架だということになる。

十字架の聖ヨハネのこぼれ話 (163)

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

監禁されていた時の誘惑③

何年も後で、『霊の賛歌』B版の第29の歌にある「私はいなくなったのだと言ってください」という節を解説した時、キリストのために始めた企てや活動において、「人が何というか、自分がどんなに見えるかなど気にせず、キリストのために徹底して赤裸な」わざを行なうほど、まったく大胆さと決意に達している人は数少ないと断言しています。そしてきっぱりと、こう結論しています。「彼らは、この世の事柄を考慮しているので、その活動のため、キリストを人前で告白することを、まだ恥ずかしく思うのである」(『霊の賛歌』29, 8) と。

トレドの牢獄は、彼にとっては、ヨナを飲み込んだ鯨のようなものでした。すでに述べたように、「目の詰まったやすり」とあだ名された彼は、他のやすりであるイエスのカタリーナへの手紙の中で、こう語っています。「そう、結局、やすりは見捨てられ、大きな光のために闇を耐え忍ぶのです」。

神からも人からも見捨てられたという誘惑は、監禁状態の間、彼の脳裏にもずっと重くのしかかっていたのです。

そしてそこからずっと後に、もちろん同じではありませんが、キリストが最大の遺棄を耐え忍んだ時は、天にも地にも、その全生涯のなかで最大の業を成し遂げた時であったと、力強く言い表すことができたのです。なぜならそれは、「恩恵によって人類を神と和解させ、一致させること」(『カルメル山登攀』第二部 7, 11) だったからです。

キリストの極限状況をキリスト教の霊的生活へ適用することによって、ヨハネはこう述べています。神と一致するためのキリストの門や道の神秘を理解している「霊的に良き人」は、神のために自分を無化すればするほど、「一層、神に一致し、より大いなるわざをなすことになる」(同上) と確信しなければならないと。

(P. 九里訳)

待降節 第2主日

(ルカ3：1－6)

主の道を整え、その道筋をまっすぐにせよ。

待降節（アドベント）は救い主イエスを迎えるために準備を行い、熱心に待ち望むときです。アドベントは待つという意味です。私たちは愛している人を待ち、その人に会いたいと熱望します。

ヨハネは、彼の使命を始めるように砂漠から神の声に呼ばれます。ヨハネは従い、すぐにヨルダン川沿いの地方一帯により知らせを告げ知らせます。ヨハネにおいて預言者イザヤの預言は成就します。

砂漠は神の声を聞くのに特別の場所です。霊的な伝統では、砂漠は神との一致を探し求めるのに特殊な場所とされています。ヨハネは成長するほとんどの年月を砂漠で過ごしました。おそらく、彼は砂漠で生活する人たちといっしょに、彼らの生活様式で暮らしました。ヨハネに神のみ言葉が届いたのは砂漠でのことです。彼は神の呼びかけを心に留め、躊躇せず出かけました。砂漠を後にすることがなければ、彼の生活は比較的平穏で安全だったでしょう。しかし、神の呼びかけは抵抗できるものではありません。神の呼びかけにどれほど抵抗しようとしたとしても、神が勝ちます。それでヨハネは砂漠の隠棲生活の安楽を離れ、メシアの道を準備する宣教に身を委ねました。

ヨハネは「主の道を整え、その道筋をまっすぐにせよ」と高らかに言いました。またヨハネは、「罪の赦しを得させるために悔い改めの洗礼を宣べ伝えました」。この宣言はキリスト者の霊的生活の中で最も重要なことのひとつです。ヨハネは洗礼と悔い改め、そして赦しに私たちを招き、イエスを受け入れるように私たちを準備させます。彼は、新しい生き方、共同体への新しい委ね、そして最終的には私たちの内に住みに来られるインマヌエルであるイエスを再確認するように私たちを招いています。

神が私たちを招かれるとき、私たちは自分の安楽な場所をいつでも喜んで捨てる準備ができていますでしょうか？ 今日、神のために宣教するように何度も呼ばれていることを思い出しましょう。私たちは十分に応えたでしょうか？ 奉仕への神の招きに従順に応え、神の望みを行う勇気を持てますように。

(Sr. Paulina)

待降節 第3主日

(ルカ3：10－18)

洗礼者ヨハネのところにいろいろな人がやって来て尋ねました。
「先生、わたしたちはどうすればよいのですか。」

ヨハネは一人ひとりに丁寧に答えます。ある人には「下着を二枚持っている者は、一枚も持たない者に分けてやれ。食べ物を持っている者も同じようにせよ」と答え、ある徴税人には「規定以上のものは取り立てるな」と言い、ある兵士には「だれからも金をゆすり取ったり、だまし取ったりするな。自分の給料で満足せよ」と言いました。

ヨハネは決して無理なことを要求しません。余っている物を分け、不正なことや暴力をせず、自分に与えられている給料で満足しなさいというのです。もちろん、給料は最低限の安定した生活が保障されなければならないでしょう。

ヨハネは、徴税人をやめなさいとか、兵士をやめなさい、とは言っていない。身分まで変える必要はなく、仕事や生活から不正を無くしなさいと言っているのです。そして、節度をもって、つつましく生きることを教えているのだと思います。

待降節第3主日は、もうすぐ主が来られるという、込み上げてくるような喜びを味わう日曜日です。主はどういうかたちで来られるのでしょうか。ご存じのとおり、貧しく、つつましい生活をされたマリアとヨセフをとおして来られます。そして、生まれる場所は誰の目にも留まらない貧しい家畜小屋でした。この降誕の喜びを味わえた人々は、マリアとヨセフをはじめ、貧しい羊飼いと東方からはるばると旅をし、主のために惜しみなく宝物を差し出した博士たちでした。

貧しく清らかな方をお迎えするためには、同じ貧しく清らかな心を準備しなければならないのだと思います。類は友を呼ぶのです。私たちも、今ある生活の中で、余っている物を整理し、不正なことを止め、困っている人に関心を向け、今いただいている生活に感謝し、質素でつつましい心を抱くことで、貧しくなられた神の神秘に響き合うようになれるのだと思います。

馬小屋に急いだ羊飼いや博士たちのように、込み上げるような喜びをもってクリスマスを迎えることができますように、祈りと生活の見直しに取り組みましょう。
(今泉健 神父)

待降節 第4主日 (C)

(ルカ 1 : 39 - 45)

「あなたは女の中で祝福された方です。胎内のお子さまも祝福されています」

今日のルカによる福音書は、聖母が従姉妹のエリサベトを訪問された場面です。エリサベトが妊娠中であると聞き、マリアは急いでサポートするために出かけられました。

聖霊に満たされたマリアは、同じく聖霊に満たされていたエリサベトが胎内の子と一緒に住む山里へと急ぎました。二人の従姉妹は、いのちと信仰を宿しながらお互いに挨拶しました。そして救い主の存在を感じて、エリサベトの胎内の子は喜びおどりました。誕生前から既に、ヨハネはイエスの霊に触れたのです。エリサベトはマリアを祝福しましたが、マリアが祝されていたのは、信仰を持っていたからと、幼子イエスを身ごもっていたからです。マリアは、妊娠期間のとても大事な時期を迎えていたエリサベトを助け、仕えました。これこそマリアからエリサベトに差し出された愛といつくしみにあふれた贈り物でした。

マリアに授けられた祝福には、この世で最も大きな喜びと最も大きな責務という二つの側面があります。マリアには、神の子の母になるという祝福と特権が与えられ、聖なるイエスを胎内に運びました。しかしその祝福は、いつの日か十字架につけられた御子を見つめる時に彼女の心を貫く剣ともなりました。神の選択には、喜びの冠と悲しみの十字架の両方があります。神の選びこそ、最善のものです。神はご自分の目的を果たすために謙遜で忠実な人をいつも選ばれます。マリアの訪問は、イエスが自分の民とともにとどまり続けていることを想起させてくれます。同じイエスが私たちの間に、ご聖体の中に、そして教会共同体の中に住まわれます。

あなたが誰か親しい人を訪問して、その訪問が皆にとって喜びのひと時となった、という体験を一番最近したのはいつですか？今年の待降節や降誕節中に、長年会っていない人を訪ねる計画を立てると良いかもしれません。あなたが道中出会うすべての人に、喜びと祝福をもたらすことができますように。

(Sr. Paulina)

聖 家 族

(ルカ 2 : 41 - 52)

今年は「主のご降誕」の翌日が日曜日にあたり、早速に「聖家族」をお祝いします。

今日の「みことば」ですが、十二歳になったイエスが両親、マリア、ヨゼフとともに、過越し祭のため、ナザレからエルサレムへと旅をされた時の出来事が語られています。大きな祭りへの旅。家族だけでなく、親類や知人たち大勢の人との旅だったのですね。

祭りの期間が終わって帰路についても、イエスがエルサレムに残っておられたことに気づかなかったマリアとヨセフ。故郷に戻る際、日中の移動が終わって宿泊場所に着き、それぞれ家族が一緒になろうとした時、イエスがおられないとわかって、着いた場所で親類や知人の間を捜し回って、エルサレムに引き返してゆき、その道中でも捜されて、エルサレムでも捜して、ようやく三日後にイエスを神殿の境内で見つけることに。

学者たちの真ん中に座り、話を聞いて質問をするイエスを見て驚く両親。マリアは、なぜこの様にしたのか、自分もヨセフも心配して捜していたと告げますが、イエスは、どうして捜したか、自分の父の家にいるのは当たり前ということを、知らなかったのか、と答えられますが、両親はイエスの言葉の意味が分からなかったとあります。

ここではそれ以上書かれておらず、「母はこれらのことをすべて心に納めていた。」と書かれています。神のなさる事柄について、人間に理解できないことは多いでしょうか。マリアは受胎告知の折に、天使を通して告げられたこと、イエス誕生の際に、羊飼いが話した不思議なことなど、心に納め歩んでゆかれました。ヨセフは夢で天使のお告げで語られた通りマリアを迎え入れました。そして神の独り子が人となり、この世に生まれ、イエス、マリア、ヨセフ、聖家族はその歩みを進めてゆかれました。

神に信頼しながら、様々な出来事を心に納めて歩んでゆく聖家族の姿を見つめながら、私たちも様々な出来事を心に納めつつ、神への信頼のうちに歩むことができますように。イエスが両親に仕えて生き、神と人ともに愛された様に、私たちも自分の家族を大切に、家族の一員として互いを大切に、歩むことができますように。

(Fr. 古川利雅)

いのちの言葉 12月

主がおっしゃったことは必ず実現すると
信じた方は、なんと幸いです。

(ルカによる福音書 1・45)

今月も「いのちの言葉」は私たちに、何が「幸い」なのかについて、一つの例を示唆してくれています。このみ言葉は、一人の女性（エリザベト）が、手助けをするために訪れたもう一人の女性（マリア）に向けた、喜びと感動に満ちた挨拶の言葉です。二人はともに身ごもっており、深い信仰の内に神のみ言葉を受け容れ、自分という小さな存在のうちにみ言葉が「生み出す力」を体験したからこそその言葉でした。

マリアはルカ福音書の中で最初に登場する「幸いな人」であり、神との親密な関係の喜びを経験した人です。福音記者はこの「幸い」のみ言葉でもって、人間に告知知らされた「神のみ言葉」とそれを「受け入れる信仰」とのつながり、「神の働きかけ」とそれに対する「人間からの自由な受諾」について考えるための扉を開けてくれています。

主がおっしゃったことは必ず実現すると信じた方は、なんと幸いです。

マリアは「アブラハムとその子孫にとこしえに約束されたこと」を真に信じた方です。マリアが本当に自分自身を空っぽにし、謙虚で、み言葉に心を開いていたので、神の言（ことば）そのものが彼女の胎で受肉し、人間の歴史に入ることができたのです。

マリアの「乙女としての母性」は、誰も経験することはできませんが、彼女の「神の愛への信頼」を真似ることは誰でもできます。心を開いて受け入れるならば、み言葉はその約束をも伴って私たちのうちに受肉するでしょう。市民として、父親や母親として、学生として、労働者や政治家として、老若男女、健康な人も病の人も問わず、私たちの人生を実り豊かなものにしてくれるでしょう。

では、ザカリヤのように、私たちの信仰が不確かなものならどうすればいいでしょうか。私たちは、神の憐れみに自分を委ね続けましょう。私たちが神の誠実さを再発見し、神をほめたたえるまで、神は私たちを探し求めてやみません。

主がおっしゃったことは必ず実現すると信じた方は、なんと幸いです。

時代はもっとずっと私たちに近づきますが、マリアとエリザベトの暮らしていた、同じ聖地の丘陵地帯に、やはり深い信仰を持つ一人の母親がいました。彼女は、生きた福音の「学校」で学んだ「赦しと対話の芸術」を子どもたちに教えていました。一つの文明の発祥の地、何世紀にも亘って常に平和と安定を模索し、異なる宗教を信仰する人々の間でもそれが求められ続けるこの地において、これは小さなしるしでした。娘の一人、マーガレットは語ります。「近所の、他の宗

教に属する子どもたちから、拒絶されて泣いている私たちに母は『その子たちを家に招待しなさい』と言いました。母はその子たちに家で焼いたばかりのパンを渡し、それぞれの家族に持って行かせました。それ以来、私たちはこの子どもたちと家族と親しい関係を築いてきました。」

キアラ・ルービックも、こうした勇氣ある信仰を持てるようにと励ましてくれます。

「マリア様は主イエスに次いで、神様に『はい』と答えた方でした。マリア様の聖性と偉大さは、まさにここに見出すことができます。主イエスが『言(ことば)』であり、『神のみ言葉が受肉された方』であるなら、マリア様は私たちと同じ被造物でありながらも、み言葉を信じ、『神のみ言葉を完全に生きた方』であったと言えるでしょう。… イエスがみ言葉の中で約束されることはすべて実現するのだと、マリア様とともに信じることです。み言葉が私たちにあまりにも多くを要求するようになる時があっても、マリア様のようにみ言葉に信頼しましょう。み言葉を信じる人は、大きいにしろ小さいにしろ、いつも素晴らしい出来事を経験します。それを書きとめるなら、何冊も本ができるくらいでしょう。… 日々の生活の中で、また聖書を読みながら、私たちは神のみ言葉に出会います。心を開いて、み言葉に耳を傾けましょう。主イエスが私たちにお求めになること、約束されることは実現すると信じましょう。主イエスが約束を実現してくださる日は決して遠くはないでしょう」。

主がおっしゃったことは必ず実現すると信じた方は、なんと幸いです。

クリスマスの準備の時期である今、「二人または三人がわたしの名によって一つまり福音的な愛において――集まるところには、わたしもその中にいるのである」という、主イエスの驚くべき約束を思い起こしましょう。相互愛の掟を受け入れ、実践する人々の間にご自身の存在をもたらすという約束を。

この約束を確信して、今日にあっても、私たちの家庭や街で、マリアとエリザベトがそうしたように、お互いを受け入れ合い、深く耳を傾け合い、きょうだいとして抱き合って、イエスの存在を再びもたらしましょう。

レティツィア・マグリ

*いのちの言葉は聖書の言葉を黙想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。

1 ルカ 1:55 参照

2 ルカ 1:5-25, 67-79 参照

3 cittanuovatv(YouTube)マーガレット・カラム (フォコラーレ現会長) へのインタビューより

4 キアラ・ルービック、「いのちの言葉」1999年8月より

5 マタイ 18:20 参照

連絡先:フォコラーレ 東京 03-3330-5619/03-5370-6424 長崎 095-849-3812

E-mail:tokyofocfem@gmail.com

ホームページ: <https://www.focolare.org/japan/>

糸巻き棒からペンへ(70)

現代人のためのイエスの聖テレジアの教え

エドゥアルド・サンス OCD

5. 聖テレジアの祈りの体験

聖テレジアは、教会における祈りの教師です。聖女の教えは、とても深く、説得力のあるものです。それは、その教えを書き記す前に、彼女がそれを生きていたからです。実際、自分が体験したことだけを書いているにすぎないと繰り返し述べています。その意味で、彼女のすべての作品は、自叙伝的なものなのです。それらの作品の中で、彼女は祈りの道を示し、それに耳を傾けようとする人々のために解説しているのです。

幼年期と青年期

テレジアは、彼女の母が、子供たちに祈りを教えるために、また聖母マリアや他の諸聖人たちへの信心を伝えるために、大変心を配っていたと回想しています(『自叙伝』1,1)。兄と共に、模倣したい聖人の伝記を読むのを楽しんでいました。すでに「六歳か七歳」の時には、天国の栄光と地獄の罰が永遠であることを思いめぐらすのが好きでした(同1,4)。年の近い兄と共に、隠遁者ごっこ(同1,5)や、少女たちと修道女ごっこをして遊びました(同1,6)。さらに「お祈りを、これは数多くありましたが、特にロザリオを唱えるために、孤独を求めておりました」(同)。それゆえ、13歳で孤児となった時、彼女はごく自然な形でマリアさまのところへはせ寄り、自分の母となってほしいと願ったのです(同1,7)。

16歳になると、人々は彼女を修道院に寄宿させました。そこにいる少女たちは、結婚の時まで修道女たちから養成されていたのです(同1,6)。そこで彼女は、口頭の祈りをたくさん唱えることでいろどられた信心深い生活を送りました(同2,2)。病気のためにそこを去り、彼女の姉の家で養生に行く途中、彼女の叔父ペドロの家に立ち寄りました。彼は、良い宗教を読むことで時を過ごし、後に修道者となりました。彼は姪に、祈りについてたくさんことを語っている『聖ヘロニモの手紙』を贈りました。

(P.九里訳)

跣足カルメル修道会HP (International)

跣足カルメル修道会ローマ本部のホームページ <http://www.carmelitaniscalzi.com> の記事を紹介します。

◀ Communications (時事通信) ▶

2021年10月29日

跣足カルメル修道会のブラジル合同管区 聖ヨセフを讃える大会開催



聖ヨセフに奉げられた今年、跣足カルメル修道会の地域管区大会が10月9日から15日まで開催されました。大会のテーマは、“寡黙で行動する人、聖ヨセフ”です。跣足カルメル修道会ブラジル合同管区の主催によるこのオンライン行事は、跣足カルメル在世会のYouTubeチャンネルで配信され、諸外国から8,000人もの視聴者がビデオから参加しました。

この大会は、全ブラジルのテレジア的カルメル会ファミリーの兄弟姉妹愛と養成の有意義な機会であり、またテレジアのカリスマを分ち合う証しとなりました。ブラジルの聖ヨセフ管区とカルメル山の聖母管区双方の修道士、修道女、在世会員たちは、この大会企画に携わり、皆が参加して聖ヨセフへの共通愛を広げるよう招きました。すべての参加者は、聖書学的導入、教皇の教説、ご保護、信心業、芸術など聖ヨセフの霊性を深めるための色々な活動にアクセスしました。それには幾つかの芸術的パフォーマンスがあり、聖ヨセフを讃える音楽コンクールも行われました。開会式ミサと閉会式ミサは、これら二つの管区の代表者たちが司式し、私たちの聖なる母聖テレジア祭日の三日間の祈りも日程に組み込まれました。

聖ヨセフを讃えるこの地域管区大会は、テレジア的未来性において、“カトリック教会の保護者聖ヨセフ宣言150周年”を記念して祝われました。私たちは大会が神の民すべての善のために霊的な実を結ぶよう望み、全ブラジルのカルメル会ファミリーの上に、神の祝福をお祈りします。(翻訳：小宮山延子)



2021年 秋号 No.382

- 信仰生活(再)入門(14) 聖書に学ぶ祈りの道(6)
 —「見ること」と「祈ること」
 片山はるひ
- 道の霊性(7)—「熱心の道」と「キリストの道」
 田畑邦治
- 「聖なるものとなる」よう呼ばれています
 —アピラのテレサ教会博士授与五十周年記念に
 伊従信子
- 孤独という美しい生き方 森 みさ
- キリストの説かれた 幸いなる道(3) 九里 彰
- 霊的研究会講義録(13)—聖書・祈り・愛について
 奥村一郎



2021年 特集号

- 「向こう岸に渡ろう」
 —パンデミック後の選択—
 向こう岸に渡ろう
 —四旬節：パンデミックの中での過ぎ越し
 中川博道
- 人類は新たに生まれねばならない
 九里 彰
- 神のいやしを行うイエス・キリストをみつめて…
 —フランシスコ教皇さまの連続講話
 「この世界をいやす」についての考察
 松田浩一
- 同じ舟に乗る者たちとして
 —『つながり』の霊性を求めて
 若松英輔
- 何も咲かない寒い日—今を問う
 大瀬高司

ご案内

1冊 580円 A5サイズ 50～70 ページ

サンパウロ・ドンボスコ書店・イグナチオ教会案内所・上野毛教会信徒ホール本コーナー・
 各カルメル会黙想の家 他にてお求め下さい

- 送付ご希望の方は、760円【580円(+送料180円)】程度の献金を下記へお振込み下さい
- 年間での継続送付ご希望の方は、年会費(年5冊：春夏秋冬+特集号 計 3,600円)を
 下記へお振込み下さい

郵便振替:00190-4-195457 跣足カルメル修道会

- お問い合わせは、事務担当：内田幸子宛に上野毛修道院へ手紙かファックス、又はe-mailで。
 〒159-0093 世田谷区上野毛 2-14-25 Fax: 03-3704-1764

E-mail: carmelshi.jimu@gmail.com

書籍案内



パンデミック 後の選択

教皇フランシスコ

無関心のグローバリゼーションは、わたしたちをその歩みにおいて危険にさらし挑発し続けます。どうかわたしたちが、正義と愛と連帯という必須の抗体を見いだせますように。

COVID-19 という人類の危機から生まれうる、貧しい人、弱い立場にある人を中心にした、新しい世界を築くための手掛かり。

カトリック中央協議会

『パンデミック後の選択』

著者：教皇フランシスコ

判型：四六・並製

ページ数：80 ページ

価格：本体 500 円（税込 550 円）

ISBN：978-4-87750-224-9

出版社：カトリック中央協議会

バチカン出版局より刊行された Life After the Pandemic の邦訳。パンデミックに言及する 8 つの文書を収録。高い感染リスクにさらされながらも他者に献身する人々や、収入が絶たれたり、在宅要請を守るのが難しかったりする弱い立場の人々に心を寄せつつ、困難な試練を新しい選択への好機に変えるよう励ます。単にパンデミック以前を取り戻すのではなく、連帯を示し、もっとも傷つきやすい人を中心にした社会を構築すべきとの呼びかけ。

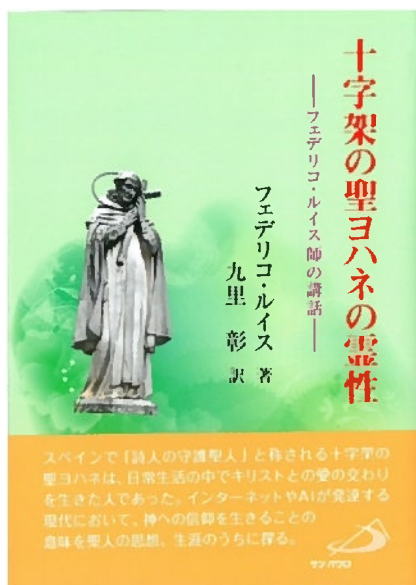
目次・内容

- 序（マイケル・ツァーニー枢機卿, SJ）
- なぜ怖がるのか（特別な祈りの式におけるウルビ・エト・オルビのメッセージ、2020年3月27日、サンピエトロ大聖堂前にて）
- コロナ後への備えの重要性（ロベルト・アンドレス・ガラルド氏あて書簡、2020年3月28日付）
- 新たな炎のように（2020年復活祭ウルビ・エト・オルビのメッセージ、2020年4月12日、サンピエトロ大聖堂にて）
- 目立たぬ兵士たち（草の根市民運動あて書簡、2020年4月12日付）
- 再起計画（雑誌 Vida Nueva（新しい生）への書き下ろし、2020年4月17日）
- エゴイズム——より悪質なウイルス（復活節第二主日（神のいつくしみの主日）説教抜粋、2020年4月19日、サントスピリト・イン・サッシア教会にて）
- ストリートペーパー関係者へ（2020年4月21日付書簡）
- 地球規模の問題を乗り越える（第50回アースデイについての一般謁見講話抜粋、2020年4月22日）
- 付録（マリアへの祈り一、二）
- あとがき

新書紹介

十字架の聖ヨハネ理解のための

待望の書 翻訳刊行



『十字架の聖ヨハネの霊性』

フェデリコ・ルイス師の講話
〈十字架の聖ヨハネ・霊性神学研究の第一人者〉

著者：フェデリコ・ルイス

訳者：九里 彰

判型：B6 判並製

ページ数：184 ページ

価格：本体 1,600 円+税

ISBN：978-4-8056-3918-4 C0016

発行：サンパウロ

スペインで「詩人の守護聖人」と称される十字架の聖ヨハネは、日常生活の中で神との親密な関係を生き、キリストと、隣人との愛の交わりを生きた聖人でした。自身の神体験を詩で表し、自らそれを解説し、著作として残しています。彼は決して近寄り難い人物だったわけではなく、バランスの取れた温厚な人でした。

インターネットやAIが発達する、「霊性の時代」といわれる現代において、神との出会いを生きる真の意味を、十字架の聖ヨハネの思想、生涯の中に探ることができます。

十字架聖ヨハネを正しく理解することは、霊性を正しく理解することの基礎となっていくます。

フェデリコ・ルイス・サルバドル

1933年スペイン、バレンシア生まれ。1950年跣足カルメル修道会入会。

1957年司祭叙階。ローマ・カルメル会国際神学大学テレジアヌム教授。

2018年10月27日マドリードにて帰天。享年85歳

九里 彰

カイルメル修道会司祭。1981年上智大学大学院哲学専攻、博士後期課程修了。1990年カルメル会入会。1997年司祭叙階。1999~2002年スペイン留学。カルメル修道会 元日本地区総長代理。現在、金沢広坂修道院院長



書籍案内

生きる意味

●キリスト教への問いかけ

清水正之・鶴岡賀雄・桑原直己・釘宮明美 編

A5判・312頁・2500円+税

ISBN978-4-87232-100-5

東日本大震災と原発事故によって喚起された「生きる意味」という愚直な問い。その答えを示すことこそが、「宗教」である。グローバル化に伴う経済格差、労働のあり方、宗教の役割など——危機にさらされている人間の救済の道を探る。

———目次———

- 序 「生きる意味への問いかけ」がなされる場をめぐって／鶴岡賀雄
- 1 東日本大震災と宗教／中下大樹
- 2 宗教と社会と自治体の災害時協力／稲場圭信
- 3 東日本大震災に思うこと／佐藤純一
- 4 脱原発の倫理／久保文彦
- 5 何のために働くのか／神谷秀樹
- 6 グローバル化する経済の中の人間／勝俣 誠
- 7 私たちの社会に希望はあるか？／宮台真司
- 8 関係の倫理学／清水正之
- 9 宗教が医療・医学に果たした役割、果たすことが期待されている役割／加藤 敏
- 10 V・フランクルのロゴセラピー／桑原直己
- 11 「神の子となる」——カルメルの霊性と共に／★九里 彰★
- 12 「おかげさま」の言語化と生き方による霊性化／中野東禅
- 13 エディット・シュタイン『十字架の学問』への道とその霊性／釘宮明美

オリエンス宗教研究所 TEL:03-3322-7601 FAX:03-3325-5322

ご注文は全国のキリスト教書店、オリエンスHP、FAX、ネット書店などへ

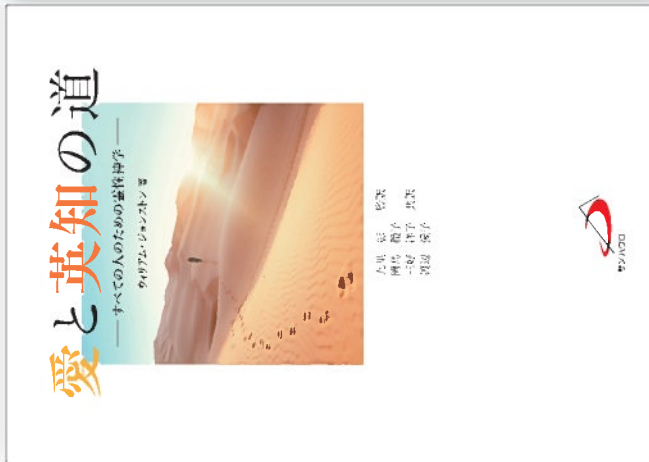
愛と英知の道

—すべての人のための霊性神学—

ウィリアム・ジョンストン 著

九里 彰 監訳

岡島 禮子 三好 洋子 渡辺 愛子 共訳



西洋と東洋の神秘主義の伝統に通暁した著者が、21世紀というグローバル化し、「地球家族」となった現代世界のすべてのキリスト者に遺した霊的生涯の道しるべ。「すべての人は、聖職位階に属している人も、あるいはそれによって牧されている人も、皆聖性へと召されている。『あなたが聖なる者となること、これが神の望みである』と使徒が言っているとおりである」（『教会憲章』39）。

本書は、十字架の聖ヨハネが16世紀に向けてなしたことを、21世紀に向けて行なおうとする、ささやかな試みです。言いかえると、その目的は、命の水を渴望する人たちへ、観想的な祈りを教えることです。筆者は、主にキリスト信者を念頭に置いて筆を進めますが、真理の探究において私どもと心を一つにし

第一部 キリスト教の伝統

- 第1章 福音書(1)
- 第2章 福音書(2)
- 第3章 理性対神秘主義
- 第4章 神秘主義と愛
- 第5章 東方のキリスト教
- 第6章 愛を通して生まれる英知

第二部 対話

- 第7章 科学と神秘神学
- 第8章 修徳主義とアジア
- 第9章 神秘主義と根源的なエネルギヤ
- 第10章 英知と(空)

第三部 現代の神秘的な旅

- 第11章 信仰の旅
- 第12章 浄化の道
- 第13章 暗夜
- 第14章 (愛のうちにある)
- 第15章 花嫁と花婿
- 第16章 一 致
- 第17章 英知
- 第18章 活動
- 第19章 社会活動の神秘主義

ウィリアム・ジョンストン William Johnston S.J. (1925-2010)

北アイルランドのベルファストに生まれる。

イエズス会に入会し、26歳で来日。

32歳で司祭に叙階され、以後、英語、英文学、宗教学を上智大学などで講じるかたわら、東西の宗教思想、特に神秘主義の研究と普及に尽力。パドロー・アルベ、トマス・マートン、ダライ・ラマ、永井隆、遠藤周作との出会いを通して、次々と著作を発表。現代に則した霊性探求の先駆者として、世界に広く知られている。85歳で帰天。



2020年のご案内

年間テーマ 手をとりあい、白ら歩み出す



大瀬高司 師

好評の2019年の連載「カトリックの信仰を生きた愛国者・ステファノ山本信次郎」に引き続き大瀬高司神父の新連載が始まります。

●近代日本の歩みとカトリック教会
——山本信次郎研究ノートより
大瀬高司（カルメル修道会司祭）

山本信次郎研究で得られた成果から、近代日本のカトリック教会での出来事や人物を取り上げ、これまであまり知られていないエピソードを中心に紹介します。

その他の新連載

- アンジェラスの鐘／加藤美紀（教育学者）
- 知恵ある者たちのアフォリズム／加藤久美子（聖書学者）
- かたわらに、今、たたずんで／大野高志（日本基督教団牧師）
- 聖歌と賛歌——民衆霊性と多様性から
杉本ゆり（中世教会音楽研究者）
- 新米神父の開拓奮闘記／大西勇史（広島教区司祭）
- いのちの交わりの場——エコロジカルな暮らしのために
吉川まみ（環境学者）

継続連載

- 典礼暦と季節の味わい（応用編）
柳谷晃子（食文化研究所主宰）



月刊『福音宣教』お申し込み方法

◇郵便局に備えつけの振替用紙にて年間定期購読料を下記口座までお振り込みください。ご入金確認後、発送いたします。

- 口座番号：00170-2-84745
- 加入者名：オリエンズ宗教研究所
- ご購読料：7500円（税・送料込）
- 備考欄：「福音宣教～月号から」とご希望の開始月をご明記ください。ご指定がなければ、最新号からお送りいたします。

年間定期購読料（年11回、8・9月合併号）7500円（税・送料込）一部定価600円＋税

オリエンズ宗教研究所

〒156-0043 東京都世田谷区松原 2-28-5

Tel 03-3322-7601 Fax 03-3325-5322 <https://www.oriens.or.jp/>



福者マリー=ユジェーヌ神父に導かれて
十字架の聖ヨハネの
ひかりの道をゆく

伊従 信子 編・訳

ISBN978-4-88216-372-5 C0195

定価**540**円(税込)

【聖母文庫】**287**

**第2版
好評発売中!**



マリー = ユジェーヌ神父が十字架の聖ヨハネ
を生き、体験し、確認した教えなのです。
ですから、十六世紀の十字架の聖ヨハネの
教えは現代の人々にも十分適応されます。
また、神の命を伝え、実践的手段を示して
聖性の最も高い段階へと導こうとする彼の
配慮が伝わってきます。(「はじめに」より)

神と親しく生きる
いのりの道

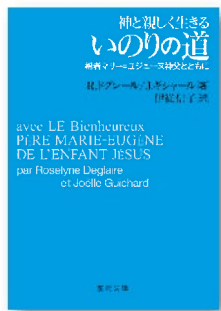
福者マリー=ユジェーヌ神父とともに

R. ドブレール / J. ギシャル 著

伊従 信子 訳

ISBN978-4-88216-307-7 C0195 【聖母文庫】**246**

定価**540**円(税込) 209頁



わたしは神をみたい
いのりの道をゆく

マリー=ユジェーヌ神父とともに

伊従 信子 編・著

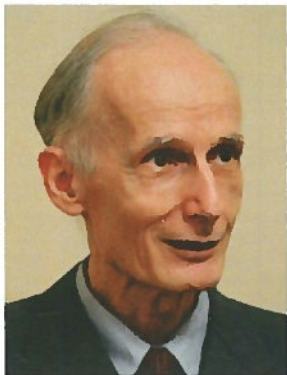
ISBN978-4-88216-339-8 C0195 【聖母文庫】**268**

定価**648**円(税込) 281頁



ご注文・お問い合わせ先

聖母の騎士社 ☎850-0012 長崎市本河内2-2-1
TEL.095-824-2080 FAX.095-823-5340



クラウス・リーゼンフーバー小著作集

(全五巻) 四六版・434頁～628頁

各巻 本体 3,800～5,000 円+税

著者は日本における中世哲学研究を牽引し、広汎にわたるキリスト教思想史の著述や編集・出版を手がけてきた。宗教家としても、キリスト教信者のみならず信仰に初めて出会う一般社会人と広く向き合い、講座や黙想会などを開いてキリスト教の精神と実践、信仰における超越との関わりを伝えている。人間の自己理解から出発し、聖書と哲学的な理解とを構築して、キリスト教信仰と霊性を現代人にとって生き生きとした形で展開している。講義、執筆活動をとおして西洋古代・中世さらに現代哲学思想をわかりやすく説く。この著作集は40余年の著述活動による150余の小論考からなっており、霊的な信仰理解と人間の経験とを結びつけて互いに支え合うものとして示そうとするものである。

人生の意義の解明と存在への問い。人生をめぐる哲学的・思想史的・人間論的な諸観点のもとで、聖書に基づいて第一根源である神を中心に展開する。

		ISBN
第1巻	I 超越体験 一宗教論 宗教の人間論的基礎付けを「意義への問い」という観点から考察した宗教哲学論文集。宗教的理解と経験がキリスト教的精神に基づいて絡み合い、人間の心を考察して全体の根源的な起源へ向ける。全11作、434p	定価(本体+税) 9784862852151 3,800 円+税
第2巻	II 真理と神秘 一聖書の黙想 日常生活を貫いて人間とかわる絶対的神秘を、聖書を紐解きつつ多面的な観点から浮き彫りにする。超越との関係を求める人に向けて、宗教的経験を解明する。全35作、544p	978-4862852175 4,600 円+税
第3巻	III 信仰と幸い 一キリスト教の本質 主の祈り、信条の命題に沿って信仰の全体像を解説。「山上の説教」をとおして人生における艱難辛苦にも焦点を合わせる。十字を切ることの意味など、聖霊の神学と霊性から信仰生活の深みを照らす。全38作、628p	9784862852205 5,000 円+税
第4巻	IV 思惟の歴史 一哲学・神学的小論 古代から中世のキリスト教思想史の考察の上に立脚し、現代における信仰をめぐる根本的な問いを洞察する。人間と神理解の可能性を新たに広げて信仰生活の深みに掘下げる。全41作、448p	9784862852212 4,000 円+税
第5巻	V 自己の解明 一根源への問いと坐禅による実践 信仰との関わり合いの薄い現代人に向け、自己への問いから発した人生の意義と超越への方向付けを見出す実践的な道筋を示唆する。「今」を中心とする存在論・時間論を展開した最終講義「時間です!」収録。全35作、470p	9784862852229 4,200 円+税

●リーゼンフーバー、クラウス [Riesenhuber, Klaus]

1938年ドイツ生まれ。1958年イエズス会入会。1967年ミュンヘン大学哲学博士。同年来日。1969年上智大学文学部哲学科専任講師。1971年東京で司祭叙階。1974年上智大学中世思想研究所所長(～2004)。1981年上智大学教授。1989年上智大学神学博士。国公立大学で客員・非常勤講師。放送大学客員教授。2009年上智大学名誉教授。現在は哲学的人間論および宗教哲学などの講座を開講。

知 泉 書 館

〒113-0033 東京都文京区本郷 1-13-2 TEL: 03-3814-6161 FAX: 03-3814-6166

<http://www.chisen.co.jp>



奥村一郎選集

追悼 奥村一郎師

その時と場所で与えられた役割を
誠実に果たし続けた師が遺す珠玉の名編

四六判・上製・平均 240 頁・各巻とも **本体 2000 円**+税

日本の文化の中で福音が豊かに開花することを求めて祈り、思索した奥村一郎師。本選集は半世紀にわたるその膨大な著作、講演等の記録から特に重要と思われるものを選び、テーマ別に集成したものです。豊かな霊性をたたえた祈りの人であり、東西霊性交流など宗教対話のダイナミックな推進者。静謐さと情熱を併せ持つ著者が紡ぎ出してきた言葉の数々は、神と人に真摯に向かう姿を私たちに示してくれます。ときにユーモアを交えたその視座は、日本における福音宣教を願うすべての人々にとっての道標となることでしょう。

第1巻



慈悲と隣人愛 解説・西村恵信

日本文化に影響を与える仏教の光を当てつつ聖書を読み、キリスト教の本質理解に近づく。カトリックから禅へ／小事と瑣事／禅とキリスト教における靈的修行

第2巻



多文化に生きる宗教 解説・橋本裕明

宗教対話と霊性交流から得られた柔軟な視点から、日本での新たな宣教の可能性を示す。大いなる贈け——宗教対話／日本人とキリスト教——遠藤文学の魂

第3巻



日本の神学を求めて 解説・小野寺 功

日本の地に根ざす神学、その開花の可能性を福音の原点である相互愛から問いかける。日本の神学——根源への問い／相互愛／「信ずる」と「愛する」／新しい旋

第4巻



日本語とキリスト教 解説・阿部仲麻呂

関係性を重視する表現が中心となる日本語を手がかりに、ことばと信仰の関係を再考する。日本人の心とその精神構造／「ことば」から「みことば」へ／聖書と翻訳

第5巻



現代人と宗教 解説・鶴岡賀雄

宗教不在とされる現代、人々が直面する課題にキリスト教はどう向き合っているのか。現代人とキリスト教／偶像の喪失／退屈／「新しい人」としての真人

第6巻



永遠のいのち 解説・八木誠一

生と死、罪と恵み、正義と愛——人間の栄光と悲慘を見極め、永遠のいのちへの道を探る。嬰兒復帰／人間の栄光と悲慘／神は死せり／十字架の秘義／人間と世界と神

第7巻



カルメルの霊性 解説・高園泰子

愛ゆえにすべてを、命さえも失ったイエスを追い求めるカルメル。その霊性の根源に迫る。アビラのテレジア／十字架のヨハネ／小さきテレーズと東洋的霊性

第8巻



神に向かう〈祈り〉 解説・高橋重幸

東西における祈りの方法論を丹念にたどりつつ、キリスト教の祈りの本質を明らかにする。考える祈り、思う祈り、愛する祈り／現代における祈りの指導者／祈りとは何か？

第9巻



奉獻の道 解説・宮本久雄

すべての人にみずからを与えつくす奉獻生活を通して、人間そのものの神秘を見つめる。清らかな矛盾／世を変えるパン種として／清貧の誓願／現代に生きる修道者の霊性

カルメル会会員、在俗会メンバーの方々には特別割引があります。直接お問い合わせ下さい。

オリエンズ宗教研究所 〒156-0043 世田谷区松原 2-28-5

TEL : 03-3322-7601 FAX : 03-3325-5322

ホームページ : <http://www.oriens.or.jp/>

カルメル会の企画案内



カルメル会の標語

Zelo zelatus sum pro Domino Deo exercituum

私は万軍の神、主に情熱を傾けて仕えてきました（列王記上 19 : 10）



東京 上野毛 霊性センター

黙想企画 **上野毛 聖テレジア修道院(黙想)**
(2021年~)

- ・祭日のミサに参加するために

チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時

【クリスマス】

12月24日(金)~25日(土) 朝食《講話なし、夕食なし》

- ・聖書深読黙想会(土曜日17時~日曜日16時) 大瀬高司 神父

2022年

11月27日(土)~28日(日)

1月 8日(土)~ 9日(日)

3月12日(土)~13日(日)

- ・《カルメル会聖人に学ぶ黙想会》(水曜日10時~16時・昼食付) カルメル会士

12月15日

2022年 1月19日 2月16日 3月16日

- ・一泊黙想会 (土曜日17時~日曜日16時) カルメル会士

2022年

1月29日(土)~30日(日)

3月19日(土)~20日(日)

- ・奉獻生活者のための黙想会 (初日17時~最終日朝食) カルメル会士

12月27日(月)~1月 5日(水)

- ・青年黙想会(男女) 35歳まで(初日16時~翌日16時) カルメル会士

2022年 3月25日(金)~27日(日)

- ・カルメル会召命黙想会(対象男子) (土曜日16時~日曜日16時)カルメル会士

12月11日(土)~12日(日)

2022年 2月26日(土)~27日(日)



- * 日程、指導司祭は変更される可能性もあります。お申込みの際には、ホームページ (<http://www.carmel-monastery.jp>) なども合わせてご覧下さい。
- * こちらに掲載されている以外の日時にもご利用可能です (グループ、個人いずれも)。お気軽にお問い合わせください。
- * 間違いを避けるため、お問い合わせは FAX・はがき・Eメール等、文書でお送り頂きますと幸いです。

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25
聖テレジア修道院(黙想)

Tel:03-5706-7355 Fax:03-3704-1789

Eメール : mokusou@carmel-monastery.jp

ホームページ : <http://www.carmel-monastery.jp>



★★★カルメル会召命黙想会★★★

カルメル会の靈性を生きることとおして教会に生涯を奉げる道があります。聖テレジアや十字架の聖ヨハネらの教えに培われて、人々に祈りと兄弟的な生活を証ししていく道です。この道に関心を抱き、心に神の呼びかけを感じている方のお手伝いをさせていただきたいと思ひます。

指導：カルメル会士

対象：カルメル会の召命に関心のある男子

場所：カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

日時：2021年 4月10日（土）～11日（日） 16時～翌日16時

6月12日（土）～13日（日） //

10月9日（土）～10日（日） //

12月11日（土）～12日（日） //

2022年 2月26日（土）～27日（日） //

会費：¥5000（3食付き）

*お問合せ お申し込み：

カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

TEL.03-5706-7355 FAX.03-3704-1789

Eメール mokusou@carmel-monastery.jp



日

夜9:30~

全地よ主をほめたたえよ

主日礼拝取材番組

- [第1]日キ教会 高知旭教会
- [第2]日基教団 石動教会
- [第3]ホーリネス教団 東京中央教会
- [第4]日基教団 小岩教会
- [第5]日基教団 久万教会

[第1,2,5]夜10:27~

神からのメッセージ

グレゴリオ聖歌
橋本周子
聖クレゴリオの家
宗教音楽研究所所長

[第3,4]夜10:27~

聖歌を味わう

[10~12月] テゼ
[21.1~3月] 正教会

月

[月~金] 夜9:30~

FEBBC TODAY - 今日の聖書・今週の讃美歌 -

恵子の郵便ポスト

FEBBCメインパーソナリティー
吉崎恵子

火

水

木

金



[第1]夜9:37~
イエスとの
対話の旅
—現代霊性神学講座—
中川博道 カトリック・
カルメル会宇治修道院司祭

夜9:48~

聴く信仰

「いのち」をいただく
御言葉黙想
山内十束
カトリック・御受難修道会
霊感黙想の家司祭

新 夜9:47~

ダビデのひこばえの到来

竹森満佐一
日基教団元教師

夜9:47~

嘆きに応える神の御言

金田聖治
日キ教会
上田教会教師

夜9:47~

Session - イエスのTuneに合わせて

早矢仕宗伯
「NCAMイエスの風」教師
塩谷達也 コスベル
長倉崇宣 シンガー

夜10:14~

Echo of Voices

長倉崇宣

夜10:14~

主に向かって歌おう

飯 靖子
日基教団 藍南坂教会
聖歌隊指揮者・オルガニスト

夜10:11~

五十嵐ジュンの Contemporary Christian Music

夜10:28~

御足の跡を

小池与之祐
日基教団 神の愛
キリスト伝道所教師

夜10:28~

FEBBC Sprout!

長倉崇宣

夜10:28~

ふらっとトーク

中川信一
長倉崇宣

夜10:28~

聖書を開こう

山下正雄
RCJメデア
ミニストリー代表

新 夜10:14~

主よ、絶望を担うキリストよ

関野和寛
日本福音ルーテル教会教師
チャプレン

[第1]夜10:25~

外からの「声」

—FEBBC HANGOUT!—

[第2]夜9:37~

イエスのことば、その根

再)
雨宮神父の福音書講座
雨宮 慧 長倉崇宣
カトリック東京教区司祭、
上智大学神学部名誉教授

[第3~4]夜9:37~

生きるとは、キリスト

小林和夫 ホーリネス
東京聖書学院教会教師

[第4~5]夜10:04~

交わりのことば

新 夜10:31~
聖歌を味わう
[10~12月]
テゼ・和解のうた
植松 功
[21.1~3月] 正教会
マリア松島純子

[第3~4]夜10:20~
Meguの
CCM insight!



宇治カルメル会 黙想会案内
(2021 年度)

10/1より黙想会を再開致しました。
今後の状況により変更される場合があります。

【聖書深読】 (午前10時～午後4時) 中川博道神父

12/18

【水曜黙想会】(第3水曜日) (午前10時～午後4時) 中川博道神父

12/15

【カルメルの霊性】 (午後5時～午後4時) 中川博道神父

十字架の聖ヨハネ 12/11(土)～12(日)

【奉献生活者の黙想】 (午後5時～午前9時) 一般可

12/27(月)～1/5(水) 中川博道神父

【待降節黙想会】 (午後5時～午後4時) 中川博道神父

12/4(土)～5(日)

【祭日のミサに参加するために】

***<クリスマス>**

12/24～25

チェックイン午後4時以降可、チェックアウト午前11:30
(講話なし 食事つき)

—その他皆さまが企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします—

☆お申し込みは電話でも受け付けておりますが、できるだけFAX、はがき、Eメールでお名前と連絡先を御記入の上、お申込み下さい。お電話はなるべく午前9時～午後5時の間にお願い致します。受付が休みの場合はその場ですぐにお返事できませんので、お手数でも後日改めてお問い合わせ下さる様をお願い致します。



〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12
宇治カルメル会 聖テレジア修道院 (黙想)
Tel 0774-32-7016 Fax 0774-32-7457
E-Mail: teresiauji@mountain.ocn.ne.jp
<http://www.carmeluji.sakura.ne.jp/>



朝日カルチャーセンターの 通信深読「聖書に親しむ」へのご案内

「通信深読」は、「聖書深読黙想会」にさまざまな理由で参加できない方々のために考案されました。参加を希望される方は、下記の朝日カルチャーセンター通信講座課へお申し込みください。手続きがすめば、次のような手順でこの「通信深読」が行われてゆきます。

ファースト・ステップ

「個人素読」：毎月、朝日カルチャーセンターから指定された聖書深読箇所を、ひとりで繰り返し読み、み言葉を自由に黙想します。

セカンド・ステップ

「個人素読」の報告書作成：送られてきた用紙（B5用紙）に、深読箇所特に印象に残った節を二三ヶ所選び、番号と○や△や×などの記号を記し、「全」には、全体の印象を表す、ご自分の体験と結びついた具体的な名詞を、「照」にはみ言葉を実践する決意を示す動詞を書き込みます。さらに「所感」や「近況報告・質問」の欄に、ご自由に自分の考えや質問等を記入します。

サード・ステップ

（参加者から朝日カルチャーセンターへ送られた「個人素読」の報告書は、参加者全員のものまとめられ、講師へ送られます。）

講師が各参加者の「個人素読」の報告書に対しコメントし、深読箇所の「解説」（A4 2枚）と共に、朝日カルチャーセンターへ送り返します。

フォース・ステップ

コメントされた全員の「個人素読」の報告書（「近況報告・質問」はプライベートなこともあるので、削除されます）と「総合素読表」、そして講師の「解説」が冊子となり、各参加者に、センターから送られます。

* 費用：6ヶ月（20,360円）。納入は4月、7月、10月、1月。継続の場合19,130円。

* 講師：九里彰師（奇数月）、今泉健師（偶数月）

* 問い合わせ：〒163-0278 東京都新宿区西新宿2-6-1 新宿住友ビル

私書箱21号 朝日カルチャーセンター通信講座課

Tel: 03-3344-2527（直通）

諸所の企画案内



真命山 霊性交流センター
ノートルダム・ド・ヴィ
サダナ瞑想
慈しみ深き会

※注)

諸所の企画記事は集約・編集しています。
記載には注意を期しておりますが、
詳細は各問い合わせにご照会下さい。
よろしくお願い致します。

真命山 2021年 — 祈りの集いのご案内

「祈りの実り：イエス様と共に、 イエス様のように生きること」

毎月第2木曜日（10:00～15:00）

指導者 フランコ神父

1月14日 柔和な師イエスに習う(マタイ11・29)

2月11日 謙遜な師イエスに習う(マタイ11・29)

3月11日 十字架を背負っているイエス様に従う(ルカ14・27)

4月 8日 神の国でキリストと共に食事の席に着く(ルカ22・30)

5月14日 給仕するイエス様に学ぶ(ルカ22・27)

6月10日 「私があなたがたを愛したように…互いに愛し合いなさい」
(ヨハネ14・34)

7月 8日 祈るイエス様に習う(ルカ11・1)

* * *

9月 9日 「病気や患いを癒された」イエスの模範に従う(マタイ4・24)

10月14日 「福音を宣べ伝えた」イエスの模範に従う(マタイ4・24)

11月11日 ナインの母親を見て、憐れに思ったイエスと共に(ルカ7)

12月 9日 「行って…場所を用意したら、戻って来て、あなたがたを
私のもとに迎える」(ヨハネ14・3)



※個人またはグループでの黙想会
研修会も歓迎いたします(要予約)

申込先

真命山 諸宗教対話センター

865-0133 熊本県玉名郡和水町蜻浦1391-7

e-mail: shinmeizan@gmail.com

www.shinmeizan.com

tel:0968-85-3100

講話と祈りのつどい

コロナウイルス感染の広がりにより、
予定しておりました「講話と祈りの集い」の開催を
現在保留にしております。

状況の推移を見守りながら開催の有無を
当会のHPに掲載いたしますので、
そちらをご覧くださいいただければ幸いです。

担当 中山真里

ノートルダム・ド・ヴィ

〒177-0044 練馬区上石神井4-32-35

TEL(03)3594-2247 FAX(03)3594-2254

e-mail notredamedevie.japan@gmail.com

サダナ瞑想 ～東洋の瞑想とキリスト者の祈り～

プログラムの詳細、開催状況、補充情報などはホームページをご覧ください。

<http://sadhana.jp/>

申込み受付・・開始日の8日前まで

コース	日時	指導	開催場所	申込み
広島サダナⅡ I	2022年 1/6(木)17:30- 10(月・祝)16:00	Fr植栗 Frアレックス	西日本霊性センター (広島市安佐南区)	西日本霊性センター受付 デスク 082-239-0034
入門C	1/16(日) 9:30-17:00	Fr植栗	★ニコラバレ修道院 (四ツ谷)	来間(くるま) 裕美子※ 090-5325-2518 sadhana12378@yahoo. co.jp
フォローアップ	1/23(日) 9:30-17:00	Fr植栗	★ニコラバレ修道院 (四ツ谷)	同上
札幌フォロー アップ	1/27(木)9:00- 28(日)18:00	Fr植栗	場所については受付 担当までお問合せを お願いします。	本間 攝子 080-3260-1864 不在時は、山崎 有紀 090-4720-2157
札幌サダナⅠ &アドバンス	1/29(木)9:00- 28(日)18:00	Fr植栗	同上	同上
新潟フォロー アップ	2/5(土) 9:00- 6(日)18:00	Fr植栗	みよや旅館(新潟県 三島郡出雲崎町)	佐藤 範子 080-3145-3646
フォローアップ 新Ⅰ	2/6(日)9:30- 17:00	サダナ チーム	★ニコラバレ修道院 (四ツ谷) この日の ミサはありません	来間(くるま) 裕美子※
フォローアップ 新Ⅰ	2/10(木)17:30- 13(日)1600	Fr植栗	小金井聖霊修道院 (小金井市桜町)	同上

※申し込まれると確認メールが返信されます。確認メールが届かない場合は、090-5325-2518(来間)までお問い合わせください。

※不在の場合は、渡辺由子 Tel&Fax : 042-325-7554

★変更になる可能性があります。

- 入門Cへの参加…入門Aまたは入門Bを終えていること。
- フォローアップおよびリピーターへの参加…サダナⅠを終えていること。



念祷の集い

～沈黙の内に神を求めて～

場所：イグナチオ教会岐部ホール404号室

時間：以下の木曜日

14:00～16:00(講話と念祷)

主催：慈しみ深き会



くのり

指導：九里 彰 神父（カルメル修道会）

中止のお知らせ

2021年度予定

予定しておりました「念祷の集い」は教区よりの指示により、当分の間中止となりました。再開については、再度紙面にてお知らせ致します。

*前回、お祈りをお願いしていた「祈りの会」のスタッフ山藤誠司さんは、膵臓癌のため、8月17日（火）に帰天されました。癌の知らせを受けたのは6月でしたので、2ヶ月余でこの世を去ったこととなります。享年59歳でした。死の二週間前のメールの最後に、「私の命を与えてくださった、神さまに感謝です」とありました。山藤さんが主のもとで永遠の安息に入られるようお祈りください。

連絡先：篠原 三恵子

Tel:042-473-6287

e-mail: mieko.shinohara@gmail.com

※各黙想会内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。

『靈性センターニュース』

* 郵送お申込みのご案内 *

ご郵送は、基本的に1月から12月までとなります。
途中からお申し込みの場合は、お申し込みの翌月から12月までとなります。
例：6月申込の場合は、7月号~12月号（但し8月号は休刊）となり、
5冊となります。ご希望の月数×250円程度の献金を下記口座
へお振込み頂ければ、幸いです。

郵便番号口座： 00910-6-333184
加入者名： カルメル靈性センターニュース事務局

なお、振替用紙の通信欄には、「郵送申込」（何月から何月まで）、また氏名、
郵便番号・住所、電話、Fax等ご明記ください。

また、郵送お申込とは別に、ご献金もお願いしております。

その場合は、「献金」とご記入お願い致します。

何かご質問等があれば、事務局の方にご連絡ください。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御藏山 39-12
カルメル会宇治修道院 「靈性センターニュース事務局」
Tel:0774-32-7456
Fax:0774-32-7457

reisei@carmel-monastery.jp

男子跣足カルメル修道会のホームページ

<http://www.carmel-monastery.jp>

Google:「カルメル会」で検索できます



男子跣足カルメル修道会
Order of Discalced Carmelites

靈性センターニュース掲載の情報も載っています

あとがき . . . つぶやき . . .

待降節第1主日の、毎年のメッセージは、「目を覚ましていなさい」です。ボーっとしては見えない、主の私たちへの力強い働きかけがあります。

たとえ、私たちの心が荒んでいたとしても、主が私たちと出会うために、道を整え、まっすぐにし、隔たりを乗り越えてやってこられることを記念する「待降節」が始まりました。私たちと主との出会いを誰よりも待っていてくださるのは、主ご自身です。しかし、目覚めていなければ、気がつきません。

実は、目覚めていれば、主が歴史の中で、世界を少しずつ創造的に変容し、ご自分との出会いへと導きつづけてきてくださっていることが、様々なデータから伝わってくるように思います。

近年、ビックデータを駆使した様々な研究からも、人がネガティブにとらえがちな世界に広がりつつある問題性からの脱出のプロセスを見ることができるようになります。例えば、…

1. 国連の統計では、現在、地上で、飢餓で亡くなるよりも食べ過ぎで亡くなる人が多く、戦争で亡くなる人よりも自死で亡くなる人が多い時代と言います。人類の克服すべき課題であった戦争と餓えは、ある意味で克服されようとしています。
2. 2011年に刊行されたスティーブン・ピンカーの『暴力の人類史』は、人類の歴史において暴力は減少してきており、現代、我々は おそらく人類史上、もっとも平和な時を生きていることを明らかにしています。その中で、イエスの生き方と教えの中心である「黄金律(マタイ7:12) (「人からしてほしいと思うことを人にもしてあげなさい」) が大きな役割を果たしてきていることを指摘しています。
3. 国連が 2030 年を目指して持続可能な世界を築いていくために定めた「SDGs (エスディーゼズ)」の17の目標は、古来、カトリック教会が目指してきた「人を大切にする目標」です。
4. 世界でミリオンセラーといわれるハンス・ロスリングの『ファクトフルネス』が示すデータに基づく世界は、人類の抱えていた様々な問題が近現代の中で改善されてきた事実を示しています。こうした事実を知ることは、主と共に神の国の完成に向かって働く希望を支えます。

しかし、世界を正しく認知できない原因は、誰もが持っている分断本能、ネガティブ本能、単純化本能、焦り本能など10の本能にあるとロスリングは解説し、これらの本能を抑えなければ、事実に基づいて正しく世界を見ることができないと、指摘しています。

あらためて、目覚めて、日々の生活の中の主の訪れを受け止めることが必要です。目覚めて、主の降誕を祝い、新しい年をパンデミック後のより良い世界を目指す年として迎えたいと思います。

(Fr. 中川博道 o. c. d.)

